

8203 「その絵はね、なくなっちゃったのよ。・・・」

「その絵はね、なくなっちゃったのよ。私はそれを探しているの。」そう言った時、私は失った絵を自分が探しているらしいということに気がついた。だが、なぜ？ 見つけてどうするのか。

「一角獣の絵なのよ。」

私はそう言い足した。

「ほう、そいつはまた。」

「裸体の女がまん中に立っているの。後ろ向きだから、顔はわからないけど。その横に、礼服を着た男が、横顔を見せて立っていて、その男が、女にむけて、一角獣をさし向けているの。贈りものみたいにね。」

高橋たか子『失われた絵』

[許容訳例]

“That painting has got lost. I’m looking for it.”

As I said this, I realized I seemed to be looking for the lost painting. But why? What would I do with it if I found it?

“It’s a painting of a unicorn,” I added.

“Well, now!”

“A nude woman is standing in the middle. You can’t see her face, for her back facing this way. Beside her a man in formal dress stands in profile and is offering her a unicorn, like a present.”

[翻訳例]

“The picture—it’s disappeared. I’m looking for it.”

As I spoke, I realized that I seemed to be looking for the lost picture. But why? What would I do with it if I found it?

“It’s a picture of a unicorn,” I added.

“Well! What do you know?”

“There’s a naked woman standing in the center. Her back is turned this way, so you can’t see her face, but standing beside her there’s a man in formal clothes with his face in profile, and he’s holding out a unicorn toward her. As if it was a present.”

■ その絵はね、なくなっちゃったのよ。 (8203)

★ 「その絵」は、場合によっては、(たとえば、絵の写真などを見たりしている場合など) that picture でもいいですが、the (今話題にしている相互了解の) picture の方がいいでしょう。なお、「絵」は painting でもいいですが、これは、所詮「塗ったもの」ですから、picture がいいです。

◆受動態 (be+p.p. と get+p.p.) に関して

★「なくなっちゃった」は it's gone.とか it's disappeared.でしょう。has got lost でも間違いではありませんが、get+p.p.は受動態の変形で、自分も含む何らかの意志が関与してその状態に変化したことを伝える言い方です。したがって、got lost というと「誰がなくしたというわけでもないのに何らかの意志が関与して消えてしまった」というような特殊なニュアンスがあるので、たとえば、他のものをあれこれ探しているうちに大事な書類がなくなってしまったというような場合によく使います。場合によっては、意志の関与を承知しながら、それを曖昧にするために使うこともあります。たとえば、雨で本が濡れて駄目になっているのを見て It got left outside.と言えば、誰が外に出して置いたのかということを曖昧にすることになるのです。

ついでなので、「受動態の感覚」を整理して置きます。ここで It's got lost の代わりに It's been lost.が使えるかというと、文法的には正しい文ですが、ここでは使えません。It's been lost.は他の意志の関与を意識している言う言い方だからです。ですから、ここで It's been lost.を使うと誰かに頼んでなくしてもらったとか、あるいは誰かをとがめるような言い方になります。いずれにしてもそれをやった人 Agent がいるということを意識して使うのです。何の理由もなく受動態を使うことはありませんから。たとえば、「その絵はずいぶんきれいになったね」と言われて“It's been repaired.”（「直してもらったの！」）と言うと、誰かがやったとか誰かに頼んでやってもらったという意味になります。

文法書には、たとえば、He was hurt.(be+p.p.)は状態（怪我をしていた）を示し、He got hurt.(get+p.p.)は動作（怪我をした）を示すと説明されていますが、実際には、He was hurt.は「怪我をしていた」（状態）と「怪我をした」（動作）と両方の意味で使います。ところが、He got hurt.は後者「怪我をした」（動作）の意味だけです。では、同じ意味「怪我をした」になる He was hurt.と He got hurt.の違いはどこにあるかですが、He got hurt.の方が agent の意志の存在を意識して使うことが多いのです、ある意味では受け身の意味を強めることになると思います。He received the action.というニュアンスが強いのではないでしょうか。もう少し詳しく分析すると、get+p.p.は一つの状態からもう一つの状態に移るということが、（自分の努力も含めて）意志の存在、もう一人の agency によるものということで、たとえば、He got hurt.（他の意志）と He got treated.（自分の意志）を考えた場合、He got treated.には He got somebody to treat him.まで入ります。つまり、自分の努力とか誰かに頼んだりして untreated の状態から treated の状態に移ったというわけです。それから He got hurt.の方は自分の努力でどうこうするのではなく、むしろ誰かに何かをされるとか、あるいは天災などの場合になるのです。この二つに共通するのは、動詞によって自分の意志や努力の場合も考えられるし、あるいは自分とは関係なく人に何かをされることも考えられるわけですが、とにかく何か agent があって一つの状態から他の状態に移るということなのです。それがポイントだと思います。時には by で agent を表すこともあります。たとえば、I got treated by a doctor.と言いますが、これは I got a doctor to treat me.と同じ意味です。それから「消えてしまえ・どこかへ行ってしまえ」という意味で Get lost.と言う場合があり

ますが、この場合の agent は自分の努力でしょう。

この問題はかなり難しく、江川氏（『英文法解説』pp. 283-284）も苦労しています。「おもに口語では、動作を表す受動態には「be + 過去分詞」の代わりに「get + 過去分詞」が使われることがよくある。」と言って、いくつか例を示しています。そして「解説」で、

「get + 過去分詞」の受動態は無制限に使えるわけではなく、Our house *got built* in 1940. とか The book *got written* by an American novelist.などとは言えない。突然・不意・偶然に起きたことによく使われ(Swan, *PEU*, § 267.3). それも主語にとって好ましくない(unfavorable)事柄であることが比較的に多い。もちろん、その反証となる例もあることを付け加えておこう。

I *got invited* to lots of parties last holidays. –Swan

(この前の休暇中はたくさんのパーティーに招待された)

なお、「get + 過去分詞」は by～を必要としない文脈で使われる傾向があることを Quirk (*CGEL*, § 3.66)が指摘している。(以下省略)

ここで示された例文は次の通りです。

Peter *got scolded* every time he brings a dog home.

(ピーターは犬を家に連れてくるたびに叱られる)

One of the directors of the company *got arrested* on suspicion of bribery. (会社の重役の一人が贈賄の容疑で逮捕された)

Please don't wear that terrible suit; you'll *get looked at*.

(あのひどいスーツを着ないでください。人にじろじろ見られますよ)

Have you *got accustomed* to this climate? (この天候には慣れましたか)

要するに be+p.p. も get+p.p. も動作主の関与を隠して述べるものですが、be+p.p.には自分の関与ではなく他人の意志が介在して事態が変わったこと、get+p.p.は自分の意志・努力も含む何らかの意志の介在によってその事態になること・なったことを述べるのです。

■私はそれを探しているの。 (8203)

★「私はそれを探しているの」は I'm looking for it. でいいでしょう。「今」が潜んでいますが、now は必要ありません。日本語と同様、イントネーションでわかります。

■そう言った時、私は失った絵を自分が探しているらしいということに気がついた。 (8203)

★「そう言った」は I spoke でしょう。I said this でも許されますが、I said so は駄目です。so は言った内容ではなく言った言葉そのものを指す場合です。

● [時] (暫時同時)

文の最後が「・・・時・・・に気がついた」となっています。ここは「それまでは気がついていなかったのに、自分で口に出してみて初めて自分の心がわかった」ということで、

時間の経過が含まれていますから「瞬時同時」(when)ではなく「暫時動詞」(as)です。

★「失った絵」は the lost picture[painting]でしょう。

★「・・・らしい」は、ここでは「すぐには自分でもわからないけれど、どうもそうらしい」という意味ですから I seemed to be…でいいと思います。

★「・・・に気がついた」は I realized (that)…がいいでしょう。realize は、たとえば, Looking around me, I realized that the book had gone.のように「事実がわかる」とか「初めて気がつく」に使います。なお, I found myself…は「目を開けてみると・行ってみると私は・・・していた」(たとえば, When I awoke, I found myself lying on the floor in a strange room.)のようにつかうのですし, notice もここでは使えません。notice は見たり聞いたりしてわかるのですから, When I came into the room, I noticed that the book had gone.のような場合に使います。

■だが、なぜ？見つけてどうするのか。(8203)

★「だが、なぜ？」は But why?

★「見つけてどうするのか」ですが、日本語の時制に合わせて What will I do with it if I find it?とするわけにはいきません。ここは Represented Thought ですから Represented Speech にして What would I do with it if I found it?とします。これは仮定法過去の文ですが、形が同じなので自然に区別がなくなってしまいます。

■「一角獣の絵なのよ」(8203)

★「一角獣」は unicorn ですから「一角獣の絵なのよ」は“It's a picture[painting] of a unicorn,”となります。なお、ここではすでに話題に上がっているものなどを指しているので“That's a picture of a unicorn,”とは言えません。

■私はそう言い足した。(8203)

★「私はそう言い足した」というような言い方は英語ではありません。add を伝達動詞として使って“…,” I added.としましょう。

■「ほう、そいつはまた。」(8203)

★「ほう」は難しい。Well に exclamation mark を付けて Well!ぐらいしかないでしょう。

★「そいつはまた」も難しい。これはどういう積もりで言ったのか。相づちのような意味合いなら Well, well.とか Well, now.ぐらいでしょう。「思いがけないことがあるものだ」とか「意外なことがあるものだ」という意味なら What do you know?でしょう。こういうのは日常的に英語を使っていないと変換できないでしょう。適切に相づちが打てるようになったら一人前だ、とよく言われます。

■「裸体の女がまん中に立っているの。(8203)

★「裸体の女」は a naked woman です。a nude woman でも間違いではありませんが、なんとなく品がありません。

★「真ん中に」は in the middle[center]です。

★「立っている」は is standing です。stands でも間違いではありませんが会話的ではない

し、堅いというか文学的というか、いずれにしてもこういう場合には使いません。なお、会話的という意味では、日本語で「裸体の女が・・・」というと There's という意味が入りますから There's a naked woman standing in the middle[center].がさらに会話的になります。

■後ろ向きだから、顔はわからないけど。(8203)

★「後ろ向き」は Her back is toward us でも文法的には正しいですが、教養ある人は us は使いません。話題は絵の裸像なので、誰の目にも「後ろ向き」なのですから one とか you です。ここは話し手が若い女性のようですから you の方が柔らかくていいと思います。なお、他には Her back is turned to[toward] one[you; us] とか、Her back is facing this way と言ふこともできます。

● [だから]

「だから」は、For her back…とか、…, for her back…でも文法的には間違ひありませんが、ここは会話ですから Her back is…, so…がいいでしょう。

★「顔はわからない」は you can't see her face です。

■その横に、礼服を着た男が、横顔を見せて立っていて、その男が、女にむけて、一角獣をさし向けている。贈りものみたいにね。」(8203)

★「その横に」は beside her です。

★「礼服を着た男」は a man in formal dress[clothes]です。「礼服」には full dress; formal dress; evening dress が出ています。full dress は、たとえば將軍などの場合は普段に着る制服とフォーマルな時に着る制服があって、そのイメージが先に出てしまうので、ここでは formal dress か formal clothes がいいでしょう。

★「横顔を見せて」は in profile とか with his face in profile です。

●「・・・に・・・が立っている」→there is … standing in…の構文が使える

「その横に、礼服を着た男が、横顔を見せて立っている」は日本文に対応して Beside her a man in formal dress is standing in profile も可能ですが、普通の会話なので、there is…の構文を利用して standing beside her there's a man in formal clothes with his face in profile と書くことも出来ます。

★「その男が、女にむけて一角獣をさし向けている」は he is offering her a unicorn でもいいですが、「さし向ける」は hold out toward[to]と言いますから he's holding out a unicorn toward her がいいです。

★「贈りものみたいにね」は like a present でもかまいませんが、As if it were a present の方が感じが出ると思います。この女の人の教養がどの程度なのかわかりませんが、普通の会話ですから、たぶん As if it was a present と言うかもしれません。